

II 調査結果のまとめ

1. 【基本目標 1】 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち

基本施策の平成27年度調査より、平成28年度調査の方が上回っている指標は、「まちづくりに参加したいと思う町民の割合」「災害用備品を準備している町民の割合」「事故や犯罪が少なく安全な町だと思う町民の割合」「教育環境が整っていると思う町民の割合」、下回っている指標は、「地域行事に参加している町民の割合」「青少年の育成について学校・家庭・地域の連携が十分だと思う町民の割合」「身近に学びの機会があると思う町民の割合」「郷土の歴史に興味を持っている町民の割合」となっています。

特に変化があった指標について、「事故や犯罪が少なく安全な町だと思う町民の割合」は8.7ポイント増加し、半数近くが安全な町だと感じていますが、30～44歳ではその割合がやや低くなっています【問12-1】。また、交通安全のために歩道・自動車道の整備、車や自転車の運転マナーの向上を求める割合が高くなっています【問12-2】。

さらに、「教育環境が整っていると思う町民の割合」は8.6ポイント増加し、約4割は教育環境が整っていると感じていますが、最近まで教育を受けていた世代である18～29歳は他の年齢より割合が低くなっています【問13-1】。また、小中学校の教育に関して道徳教育などを通じた豊かな心の育成が求められるとともに、30～44歳の子育て世代からは学力・学習意識の向上を望む割合も高くなっています【問13-2】。

2. 【基本目標 2】 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち

基本施策の平成27年度調査より、平成28年度調査の方が上回っている指標は、「自然と調和したまちづくりが行われていると思う町民の割合」「公共交通を利用しやすいと思う町民の割合」「いつでも安心して水を利用できると思う町民の割合」「自然を大切にすることを心がけている町民の割合」「リサイクルを心がけている町民の割合」「できるだけ地元で採れた食材を利用している町民の割合」「地域の商工業が活性化していると思う町民の割合」、下回っている指標は、「憩いや交流のために公園が活用されていると思う町民の割合」「道路が円滑に通行できると思う町民の割合」となっています。

特に変化があった指標について、「できるだけ地元で採れた食材を利用している町民の割合」は9.4ポイント増加し、半数近くが地元で採れた食材を利用していますが、年齢が下がるほど割合が低くなり、18～29歳の約4割は利用していないと回答しています【問22-1】。また、地元農産物をスーパーや農産物直売所で購入している人が多い一方で、粕屋西小学校区は他の小学校区と比較して購入・入手できるところが身近にない人が多くなっています【問22-2】。

さらに、「道路が円滑に通行できると思う町民の割合」は3.8ポイント減少するとともに、通行できると思わない町民の割合が半数を超えるなど、道路網の整備への課題がうかがえます【問19-1】。歩行時の不安として、歩道の歩きにくさや少なさ、街灯の少なさがあがっており、歩行者の安全を守るための環境整備が求められています【問19-2】。

3. 【基本目標3】誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち

基本施策の平成27年度調査より、平成28年度調査の方が上回っている指標は、「運動や食事など自分の健康に気をつけている町民の割合」「子育て環境が整っていると思う町民の割合」「妊娠・出産期における支援が充実していると思う町民の割合」「元気な高齢者が活躍する場があると思う町民の割合」「高齢者に対する支援が充実していると思う町民の割合」「障がい者に対する支援が充実していると思う町民の割合」「一人ひとりの人権が尊重されていると思う町民の割合」、下回っている指標は、「障がい者が地域や社会の中でともに暮らせていると思う町民の割合」「困ったときの福祉相談窓口を知っている町民の割合」となっています。

特に変化があった指標について、「運動や食事など自分の健康に気をつけている町民の割合」は15.0ポイント増加し、約8割が健康に気をつけていると回答しており、65歳以上では9割となっています【問24-1】。また、健康づくりのための心がけは、18～29歳では休養や睡眠をとること、30～44歳、65歳以上では欠食しないこと、45～64歳では健康診断を受けることがそれぞれ最も高くなっており、年齢により異なる傾向となっています【問24-2】。

さらに、「一人ひとりの人権が尊重されていると思う町民の割合」は8.1ポイント増加しています。しかし、どちらともいえないが5割を超えている状況から、暮らしの中の感覚として判断しにくい問題であることがうかがえるため【問29-1】、学校での人権教育の充実などにより、町民が人権について理解を深めることが重要となっています【問29-2】。

なお、「困ったときの福祉相談窓口を知っている町民の割合」は6.9ポイント減少しており、福祉相談窓口の認知度が低下しています【問28-1】。一方で福祉のことで困っている人がいた場合に行政への相談をすすめる人が多いため、窓口の認知度を向上することで、困難を抱えた人を適切な支援につなげていくことが期待できます【問28-2】。

4. 【基本目標4】健全で持続可能な行政経営をめざすまち

基本施策の平成27年度調査より、平成28年度調査の方が上回っている指標は、「町民のニーズに応えた行政運営が行われていると思う町民の割合」「税金が有効に使われていると思う町民の割合」「他自治体と連携や協力が行われていると思う町民の割合」、下回っている指標は、「広報やホームページ等、町からの情報発信が充実していると思う町民の割合」となっています。

特に変化があった指標について、「町民のニーズに応えた行政運営が行われていると思う町民の割合」は5.2ポイント増加しているものの、2割半ばとニーズに応じていると感じている町民は多くはない状況です【問31-1】。

また、「広報やホームページ等、町からの情報発信が充実していると思う町民の割合」は7.1ポイント減少し、5割を割り込んでいます【問30-1】。町の情報源として大半の人が広報かすやを利用しているため、町民の興味・関心に合わせた情報発信を充実していく必要があります【問31-2】。

5. 粕屋町での暮らしについて

まちづくりのスマイル指標はすべての指標で平成27年度調査より、平成28年度調査の方が上回っています。

特に変化があった指標について、幸せ指標の「粕屋町に暮らしていて幸せだと思う町民の割合」は9.4ポイント増加しており、若い人ほど幸せを感じている傾向があります【問34-1】。また、幸せであるために家計や健康の状況を重視する人が多くなっています【問34-2】。

さらに、健やか指標の「粕屋町は健康に暮らせるまちだと思う町民の割合」は13.2ポイント増加しており、基本目標3の「運動や食事など自分の健康に気をつけている町民の割合」も大きく増加していたことから、健康への関心や取り組む人が増加していることがうかがえます【問38】。